韓国にあって、
日本にないもの。

ー　日韓比較から考えるSDG s 達成のヒント　ー

四国大学　文学部　国際文化学科　２年　村部寿珠

韓国研修で主に学びたかったこと

- 韓国ではどのように
持続可能な消費の日常化を推進しているのか
- 韓国のリサイクルについて



- 韓国研修で実際に見たことを吸収し、
さらなるSDGｓへの提言やアイデアにつなげる



韓国で見つけた環境への取り組み





済州島　リサイクリングアシスタンスセンター

他にも…

・大学ごとに学生が主体的に環境問題に取り組むキャンペーン

・食品消費期限表示制度の導入

日韓比較から考えたこと

韓国	日本	考えたこと
生ごみを分別・収集し資源として循環させる仕組みが整っている	自治体によって方法が異なり、生ごみを可燃ごみとして出す場合がある	資源として循環させる仕組みが重要
学生が主体となり環境問題に取り組む活動がある	大学ごとに取り組みが異なり、学生主体の活動が十分でない場合もある	学生が主体となり、継続的に参加できる仕組みをつくるべき

SDGｓ達成に向けた推進案
「REFILL PROJECT
ーマイボトル利用によるペットボトル削減ー」



〈学生側〉

マイボトル持参

↓

学生証認証



↓

給水

↓

SDGsポイント獲得

↓



ポイントを貯める

↓

貯めたポイントは学食割引や
学内特典などに使用

〈大学側〉

利用データを集計

↓

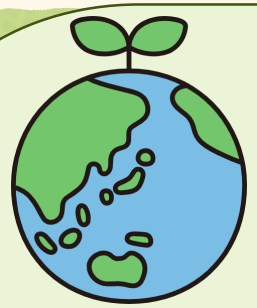
ペットボトル削減量を可視化

↓

SDGsへの貢献



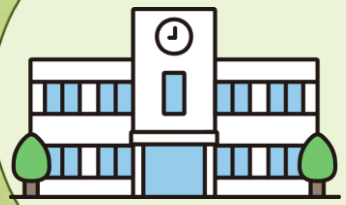
期待される効果・今後の展開



〈環境〉
・ペットボトル使用量削減
・プラスチックごみ削減



〈学生〉
・SDGsを身近に感じる
・行動変容につながる



〈大学〉
・削減量をデータ化
・成功すれば他施設や
地域へ展開

韓国で得た気づきを、大学という身近な場所から行動へ！